

「とちぎの縄文土器」

— 今から 4,500 年前の北と南 —

1. 概要

80kmも離れた栃木県北端の仲内遺跡（日光市湯西川字井戸沢）と南端の寺野東遺跡（小山市大字梁）の縄文時代中期（今から約 4,500 年前）のほぼ同じ土器を展示し、それぞれの縄文土器の華やかな装飾の中に、遙か昔の県南と県北の地域性を比較する。

2. 展示資料一覧

| | 資料名 | 遺跡名 | 点数 | 内容 |
|---|--------|------------|----|-----------------------------|
| 1 | 縄文土器深鉢 | 仲内遺跡（日光市） | 5 | 東北南部や新潟県と共通する文様の土器。 |
| 2 | 縄文土器深鉢 | 寺野東遺跡（小山市） | 5 | 利根川下流域の茨城県や千葉県などと共通する文様の土器。 |
| | | 合計 | 10 | |

3. パネル一覧

| | パネル名 | 内容 |
|---|--------------------|---|
| 1 | はじめに | 導入パネル。80 kmも離れた栃木県北端の日光市仲内遺跡と南端の小山市寺野東遺跡。今から 4,500 年前のそれぞれの縄文土器の華やかな装飾の中に、遙か昔の県北と県南の地域性を感じてもらう。※遺跡位置図 |
| 2 | 遺跡紹介パネル （仲内遺跡） | 調査では、縄文時代中期（今から約 4,000 ～ 5,000 年前）の竪穴住居跡 23 軒、土坑（木の実の貯蔵穴やお墓などの穴）375 基などが発見された。竪穴住居跡には、この時期、東北地方南部で発達する複式炉と呼ばれる独特の囲炉裏が作られるものが多く、貯蔵用の穴は、入り口が狭く底が広い巾着袋に似た形状のものが流行する。 なお、集落の中央に位置する土坑からは、ヒスイ製の胸飾り（硬玉製大珠）が出土しており、この集落の有力者のお墓であったと思われる。 ※遺跡遠景、竪穴住居跡調査風景、硬玉製大珠出土状況写真 |
| 3 | 遺跡紹介パネル （寺野東遺跡） | 「縄文時代の土木工事跡」として報道された縄文時代後期～晩期（今から約 4,000 ～ 2,500 年前）の環状盛土遺構や水場遺構が確認され、平成 7 年 11 月には国史跡の指定を受けた。現在は、「おやま縄文まつりの広場」として整備され、広く活用されている。また、同じ場所から縄文時代中期（今から約 4,000 ～ 5,000 年前）の竪穴住居跡 75 軒、土坑（木の実の貯蔵穴やお墓などの穴）1,000 基以上が発見されており、すでにこの地域の中核的な集落が存在したことが明らかになった。 ※遺跡遠景、竪穴住居跡調査風景、縄文土器出土状況写真 |



展示風景